



三重県神道青年会報

SAKAKIHA

神



祝 第 五十 号



会長挨拶

第三十代会長
菅原神社禰宜 溝脇 斉



まず以て、本年元日の能登半島地震により被災された皆様、そのご家族の方々にご心よりお悔やみとお見舞いを申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興と復旧をお祈りいたします。また、神道青年会としては、東海地区と北陸地区で災害協定を結んでおり、今後復興支援活動など、迅速に対応出来るように準備を整えています。

さて、昨今の少子高齢化により、私たちの地域社会も大きな変化に直面しています。当会も例外ではなく会員数だけでは測れない兼業神職の増加や、今後の役員不足が懸念されます。そ

のような現状におきましては、なかなか一緒に活動するのが難しい兼業神職会員でも、ご参加いただきやすい交流会を曜日や時間にも配慮して開催をいたしました。また、恒例事業の維持継続が難しくなっていく中、一つ一つの事業を今後へ繋ぐことの出来る事業へと見直して参りました。三重県出身の俳聖松尾芭蕉の理念の一つに『不易流行』とありますが、伝統を大切にしつつ、時代に応じて新しいものを取り入れていく、今まさに当会が実践すべきことと考えます。

そして、次年度は令和七年三月十八・十九日に神道青年全国協議会主催の中央研修会（神宮研修会）が伊勢の地で開催されます。この研修会は約十年に一度開催されますが、なぜ十年に一度なのでしょう。それは神宮式年遷宮が二十年ごとに斎行

されていることや神道青年全国協議会が全国を十地区に分けられていたことなど、これまでの先輩諸兄のさまざまな思いが考えられますが、その理由の一つとしては青年神職という限られた期間に必ず一度は開催されるようにではないでしょうか。それほど重要であり学ぶべき研修会であると認識しております。昨年春には運営委員会を立ち上げ、三重県の会員を始め東海地区を挙げて実りある研修会とするために準備や努力を惜しむことなく進めています。

最後になりましたが、今年度を通じてさまざまな活動に際しましては、神宮をはじめ県内各社・県神社庁それから役員並びに会員各位のご支援とご協力の賜物と厚く御礼申し上げますと共に、今後も変わらぬご理解とご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

役員紹介(敬称略)

- 〈会長〉 溝脇 斉
- 〈副会長〉 北川 峻佑、増田 秀磨、田井 健治
- 〈理事〉 宇治土公 太賢、村田 知聰、村田 卓謹、内田 良麻、西尾 敏容、波多瀬 史弥、富永 悠司、梅坂 昌宣、奥山 稔大
- 〈事務局〉 局長 高山 広史、次長 菅原 工記、西村 聡汰
- 〈監事〉 吉田 実生、大野 一省
- 石垣 智矢、大田 公二郎、種村 睦貴、吉田 隆永、川井 舞、足立 涼、梅原 郁彦、高橋 巖希

令和四年度 定例総会

令和五年四月十八日、令和四年度定例総会を開催した。

まず、塚原神社庁長様よりご祝辞を頂戴したのち議事が進行され、令和四年度会務報告、会計決算報告を上程し、夫々承認された。

また、任期満了に伴う役員改選が行われ、昨年の十二月に開催された臨時総会で次期会長に溝脇副会長が選任されていることから、溝脇新会長より副会長以下役員の名指があり、承認された。

溝脇新会長からは、当会の活動方針でもある「繋ぐ、繋げる」を意識した会務運営や青年神職としての情熱と勇気ある活動を実践して参りたいとの挨拶があり閉会となった。



会務報告

令和五年 四月

十八日 令和四年度定例総会

二十一名出席 神社庁

卒業式 三十二名参加 津市内

五月

十九日 長野県神青合同植樹事業

五名参加 長野県

二十六日 第一回役員会 十四名出席

三重縣護國神社

六月

二十七日 第二回役員会 十六名出席 神社庁

七月

八日 福祉活動「白塚海岸清掃奉仕」

九名参加 白塚海岸

十日 親睦行事「富士登山」 六名参加

静岡県

二十八日 県内神社巡拝・第三回役員会

十四名参列 猪名部神社

八月

五日 第十三回神社スカウト全国大会

開催奉告祭奉仕 五名奉仕

八日 第四十二回お宮の子供会

十名参加 猪名部神社

二十一日 第四回役員会 十三名出席 神社庁

第三回親子参宮団 九名参加 神宮

九月

三日 氏子青年会との合同研修会

九名参加 多度大社

十六日 福王神社復興支援活動

七名参加

二十九日 第五回役員会 十四名出席 神社庁

会員交流会 二十三名参加 津市内

十月

二十七日 第六回役員会 十二名出席 神社庁

十一月

十日 神宮神道青年会との合同研修会

三十七名参加 神宮会館

十三日 新職員交流会

二十四名参加 伊勢市

十五日 第七回役員会 十一名出席 神社庁

神宮大麻頒布促進運動

(簡易神棚配布) 県内各所

十二月

十三日 第八回役員会 十六名出席 神社庁

忘年会 二十二名参加 津市内

二十三日 第九回役員会 十三名出席

猿田彦神社

新年会 三十名参加 伊勢市

令和六年 一月

八日 建国記念の日啓発活動

九名参加 宇治橋前

八日 北部・中部ブロック研修会

二十三名参加 神社庁

十三日 第十回役員会 十三名出席 神社庁

十六日 県外研修 十一名参加 北海道

二十二日 神宮・南部ブロック研修会

二十二名参加 神宮会館

二十二日 第十一回役員会 十五名出席 神社庁

三十一日 会報「榊葉」第五十号発行(千五百部)

八月五日、第十三回神社スカウト全国大会が神宮お膝元である伊勢市内で開催された。

皇學館大学記念講堂に於いて、全国から参加の参加者約千名が参列する中、開会行事の一環として開催奉告祭が斎行され、会長以下五名が奉仕をさせていただきました。

この開催奉告祭は、毎回当会が



第十三回 神社スカウト全国大会 開催奉告祭奉仕

奉仕をさせていただいており、神宮大司様を始めとするご来賓が参列される祭典を奉仕する機会には減多になく、緊張の中でのご奉仕であったが、無事斎行することができ、皆安堵の表情を浮かべていた。

日頃は神社の杜で元気に活動しているスカウトたちも真剣な顔で参列していたことが印象に残った。



献血推進事業として、例年に引き続き役員を中心に献血を行いました。献血者は当会のフェイスブックとインスタグラムで紹介させていただいた。

近年は会員だけではなく県内の神職の方々からも献血の協力をいただいております、この輪が更に大きくなるよう、今後も継続して献血協力への啓発活動を行っていききたい。

献血報告

長野県神青との合同植樹事業

五月十九日、長野県神道青年会と合同で、神宮式年遷宮の御用材と同じ木曾ヒノキの植樹を長野県木曾町で執り行った。



当日は雨天にも関わらず二十名以上の参加者があり、一つ一つ手作業で苗木を植えた。また、前回植樹したヒノキの成長を確認することもでき感慨ひとしおであった。

白塚海岸清掃奉仕

その後は御嶽山ビジターセンター（さとテラス三岳）で、噴火から十年目を迎えようとする御嶽山噴火災害の展示を見学。そして安心して登山できるよう新たに導入された機器やシエルター等による安全対策を学ぶ事ができた。

参加者より、将来御用材となるヒノキを自分の手で植えられた事を大変ありがたく感じると共に、この事業を長く継続し、今後の成長を見守りたいとの感想が寄せられた。



七月八日、社会福祉活動の一環として、津市の白塚海岸清掃奉仕に、役員ら計九名が参加した。

午前七時半頃から蒸し暑い曇り空の下で開始されたが、雨に降られることなく比較的過ごしやすい気候であった。

「海の豊かさを守ろう」という共通の目的意識をもち、現地を直接見ながら美化活動を行うことに大きな意義があり、社会貢献のやりがいや成果を感じた。当たり前のことでも身近な行動を見つめ直すことに繋がると、今後地道に活動していきたい。



「海の豊かさを守ろう」という共通の目的意識をもち、現地を直接見ながら美化活動を行うことに大きな意義があり、社会貢献のやりがいや成果を感じた。当たり前のことでも身近な行動を見つめ直すことに繋がると、今後地道に活動していきたい。

神祭具 授与品 記念品 奉製

株式会社 神路社

本社 〒516-8611 三重県伊勢市岩淵2丁目5番29号(私書箱第26号)
電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110
E-mail info@kamijisya.co.jp

神苑(東日本営業所) 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号 ACTビル4階
電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721
E-mail info-tokyo@kamijisya.co.jp
http://www.kamijisya.co.jp

社殿造営
かやぶき神殿・神具
御霊舎・丸曲製造
設計・施工・販売

有限会社 俵田屋

代表取締役 田中弘紀
伊勢市宇治浦田1丁目10-38
☎(0596) 22-3905(代)
FAX (0596) 22-3908

太鼓作り900有余年
本木製ならではの品格と質の高さは最上級

原木・原皮からの一貫生産工場直売

在庫豊富 各品速納 カタログ送付

諸太鼓製造元 津島神社他多数御用達受
○神社・仏閣・教会用○雅楽・能楽用各種○祭礼用・舞台用・他

堀田新五郎 商店

☎(0567)26-2412(代)
愛知県津島市新田町5-123 FAX:(0567)24-7663
メールアドレス: shingoro@pony.ocn.ne.jp
ホームページ: https://www.hottashingoro-taiko.com

インターネットコミュニケーション&リサイクル

ミエネット販売

代表 楠 康弘

〒516-0001
三重県伊勢市大湊町 185-10
TEL・FAX (0596) 36-4751



九月三日、三重県在住の親子を対象に、神宮や式年遷宮についてより深く知ってほしいという目的のもと第三回親子参宮団を開催した。当日は、二十名の方々(子供十二名・保護者八名)にご参加いただいた。

まず、豊受大神宮(外宮)に



参拝し、外宮神楽殿で御神楽を奉納。その後、外宮神域内で「謎探し」と題して、事前に準備した問題を解きながら親子で散策していただいた。

その後、神宮会館に場所を移し、神宮や式年遷宮について、神宮で奉仕している会員が、参加された子供達にもわかりやすく解説を行った。

当日は暑い日であったが、それぞれのご家族に「神宮」を感じ



じていただき、良い思い出になる事業であった。



八月八日、四十二回目を迎えた「お宮の子供会」を員弁郡東員町北大社鎮座の猪名部神社で開催し、二十九名の子供達にご参加いただいた。

この事業は、次世代を担う子供達に神道や神社について身近に感じてもらう日本の歴史や文化に興

味をもってもらうことを目的に毎年開催している。

当日は、一般的な神社の参拝作法や猪名部神社の由緒などを学び、水鉄砲でのゲームや簡易神棚の工作を行った。また、神社の境内に棲みついているアオバズク(フクロウ)の観察をした。



昨年、コロナ禍の影響により中止となったが、境内で楽しく過ごし、神社について学ぶ子供達を見ると、この事業が次世代への神社神道を継承する大切な事業である



ることを再認識した。

来年度も充実した青少年への教化活動となるよう努めていきたい。

神棚・神具の丁寧なお祀りの仕方を説明出来るスタッフを募集しております。



神と心のあいだに

伊勢 宮 忠



うどん食堂つぼめや

〒516-0018

伊勢市黒瀬町 953 番地

TEL0596-22-5480



総合カタログ進呈

社殿・調度品・神祭具・御装束

伊藤商会

〒470-0134 愛知県日進市香久山1-608-1

フリーダイヤル ☎ 0120-192381

いいくにさんばい

FAX 052-806-9002

ホームページ <https://itousyoukai.jp>



神祭具御装束調進

鈴木半三郎商店

〒516-0077 伊勢市宮町1丁目12-7

(TEL) 0596-23-1881

(FAX) 0596-23-0202

特集

会報「榊葉」発行五十号の歩み

「榊葉」撰名の由来

宮中賢所御神楽の儀の採物「榊」の歌詞に

「榊葉の香をかぐはしみ求めれば八十氏人ぞまどみせりける」とある。神宮で斎行される神嘗祭の御神楽にも奏されている。

この歌詞を現代語訳すると「榊の葉の何とも言えぬかぐわしい匂いが漂ってくる。どこから来るのだろうか、求めたどつて来たら、大勢の氏人が神前に集まって神楽を奏しているではないか」である。

神道と榊、神社と榊は切り離せないものであり、三重県神道青年会員が御神徳を慕って集まり、融和一致して、斯界の発展を論じあう場であるから「榊葉」



榊葉 第1号

とされた。

撰名者は、三重県神道青年会初代会長である神宮禰宜の宇仁一彦氏である。

創刊日について

昭和四十二年八月一日創刊。当時、第六代会長の岡野倭文彦氏を始め、青年会役員が企画し発行された。

これは、第六十回神宮式年遷宮・神道青年全国協議会発足二十年を間近に控え、そして明治維新百年を記念した事業であった。

創刊当初は毎年発行していなかった？

発刊日を見ると毎年ではなかったことがわかる。発刊日も年によって違っている。特に最初のころに目立つように感じるが、その当時を見てみると青年会員数も少なく、発刊するにも大変な苦勞があったのではないかとということが伺い知れる。

増刊号の存在

平成九年、二十三号とは別に「増刊号」が発刊されている。この「増刊号」を見ると大東亜戦争終結五十周年の記念事業として三重県神道青年会が企画した「パラオ慰霊友好団」について記載されている。

この慰霊友好団に三重県出身の戦没御英霊のご遺族も参加され、慰霊祭が斎行された。また、現地の人々との交流についても記載されており、当時の御英霊顕彰事業として大きなものであったと感ぜられる。



榊葉 増刊号

「榊葉」の過去号ホームページ内掲載中



「榊葉」五十号の発刊を記念して、これまで発行された過去号を三重神青ホームページ内で掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

三重県神道青年会 ホームページ SNSで情報発信中

QR codes for Home Page, Facebook, Instagram, and YouTube.

Table of magazine issues from No. 1 to No. 50, including issue number, date, and year.

Table of magazine issues from No. 26 to No. 50, including issue number, date, and year.

Advertisement for 'Yusoku' (有職工房) featuring traditional Japanese clothing and services.

Advertisement for 'Ise Minato' (湊) featuring traditional amulets and talismans.

Advertisement for 'Ikemura' (甲村) featuring architectural services and shrine/temple supplies.

福王神社 復興支援活動

九月二十二日、八月の豪雨により被災された三重郡菰野町大字田口に鎮座の福王神社（三橋航宮司）へ会員七名が起き復興支援活動を行った。

早朝より氏子の皆様と共に作業を開始し、人力作業によるところが多くあったが、一部復旧するところがあった。

「ご一緒に活動した総代さんからは、「地域の高齢化・過疎化が進んでおり、復旧が思う様に進まない」



神宮大麻頒布 促進運動

神棚の保有率と神棚を拝む頻度が低下してきている中で、まずは神宮大麻や御神札をお祀りできる環境を整えることを目的として簡易神棚百字を制作した。

簡易神棚は、県内の会員が奉仕する神社の社頭において無料で配布した。

簡易神棚と合わせて以前制作した御神札の祀り方について解説しているYouTube動画「神棚を祀る」へアクセスできる二次元コードを記載したチラシや神社本庁作



とお伺いし、この度の活動が微力ながら大切な活動であると感じた。



新職員交流会

十一月十三日、伊勢市の県営体育館に於いて、新職員交流会を行った。新職員十三名、溝脇会長以下会員十名の計二十三名が参加し、インディアアカで汗を流し交流を図った。

四チームに分かれ、優勝を争い、どの試合も一進一退の激しい攻防が繰り広げられ、会場は白熱した雰囲気にも包まれた。最初は固い表



情だった新職員も次第に声を掛け合ったり、笑顔が見られたりと、会員同士の交流を深められているようであった。



建国記念の日 啓発活動

二月八日に建国記念の日（二月十一日）に向けて、神宮の宇治橋前で参拝者の方々へ建国記念の日と国旗掲揚啓発するクリアファイル



成の神棚奉斎啓発冊子「暮らしの中の神棚」も配布した。

この活動を継続していく事で、少しずつ奉斎家庭の増加に貢献していきたい。

このクリアファイルは、A5サイズで建国記念の日についての記載や祝日一覧も掲載しており、二千五百枚を作成した。

また、会員が奉仕している神社の社頭でも配布した。



大和工芸

各種美術看板・企画・設計施工・デザイン・塗装

大和工芸

〒518-0836 三重県伊賀市緑ヶ丘本町4164-1番地内 TEL 0595-23-0226
E-mail: daiwa-k@fancy.ocn.ne.jp FAX 0595-23-1408

全国各神社 御神符御社頭授与品 奉製所

伊勢國産合資会社

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町87
TEL 0596-22-2960
FAX 0596-22-2335

◎多少にかかわらず御用命ください。

神酒 三重の新嘗 醸造元
清酒 宮の雪

株式会社 宮崎本店

ISO9001・ISO14001 認証取得企業

四日市市楠町南五味塚972
電話 (059) 397-3111
www.miyano-yuki.co.jp

創業270年の 伝統技術 桑名 和太鼓 造り

創業宝暦三年 御太鼓師 九代目 阿部甚兵衛

阿部太鼓店

心に響く確かな技

桑名市下深谷部645 (高砂町)
(大桑国道258号線深谷陸橋下西へ50m)

☎(0594)29-1110(代)
FAX(0594)29-3405

氏子青年会との合同研修会

九月十六日、コロナ禍で不開催であった三重県氏子青年会との合同研修会が五年ぶりに開催された。

氏子青年会より十九名と当会会員九名の二十八名が参加した。

多度大社権宮司平野直裕先生をお招きし、「多度大社上げ馬神事について」と題してご講演をいただいた。三重県の無形民俗文化財として指定されており、神事についての由緒等についてわかりやすくご説明をいただいた。

研修会終了後、懇親会が開催され、氏子青年会員との意見交換を行い、親睦を深める良い機会となった。



神宮神道青年会との合同研修会

十一月十日、神宮神道青年会との合同研修会を開催した。

今回の研修会は、令和五年は倭姫宮が御鎮座されてより百年という記念すべき年であり、県内神職も神宮・倭姫宮・倭姫命について知見を深めるべく、皇學館大学文学部国史学科教授の遠藤慶太先生をお招きし、「倭姫命の巡幸と伊賀・伊勢」と題してご講演いただいた。

倭姫命は天照大御神が御鎮座されるにふさわしい地を求めて各地を巡幸されたが、古代史の観点から特に伊賀国と伊勢国の要衝を踏えた巡幸経路についてお話しいただいた。

また研修会前には倭姫宮を参拝し、神宮徴古館で開催中の倭姫宮創祀百周年記念展「皇女倭姫命―天照大御神の御杖代として―」を拝観した。



北部・中部ブロック研修会

二月八日、北部・中部ブロック研修会が開催され、会員と一般神職含め二十三名の参加があった。

今回は「三重の神饌」と題して、神社でお供えされている神饌についてをテーマに、文筆家・皇學館大学非常勤講師である千種清美先生をお招きしてご講演をいただいた。

神宮の神饌を始め、県内特に南勢地域の神社でお供えされている特殊神饌（一般的な神饌とは違い神社や地域独自の神饌など）について、いくつかの例を基に解説いただいた。

地域の文化や伝統を基にさまざまな神饌が供えされるようになった経緯や背景について学ぶことにより、人々の生活と深く結びついてきた神祭りの祈りと信仰を感じることができた。



神宮・南部ブロック研修会

三月十二日、神宮・南部ブロック研修会が神宮会館にて開催された。「近世の神宮式年遷宮」と題して、皇學館大学文学部神道学科教授松本丘先生にご講演をいただいた。

群雄割拠の戦国時代が終わり、神宮に於いては中断を余儀なくされた式年遷宮、また荒廃した諸社・祭儀の復興に始まり、式年・式月・式日が整えられるなど、現代に至る礎が太平の世となった江戸時代に築かれた事をお話しいただいた。

前回にあたる平成二十五年齋行の第六十二回神宮式年遷宮から折り返しを迎え、次期遷宮に向けてのご準備が目前に迫るこの時期に、時代に応じながら現代へ繋がれてきた遷宮の基本軸を学べた事は、来る遷宮への気運を高めていく糧となる貴重な研修会であった。



あなたの本づくりサポートします!

- 自分史
- 句集
- 歌集
- 写真集
- 画集
- エッセイ

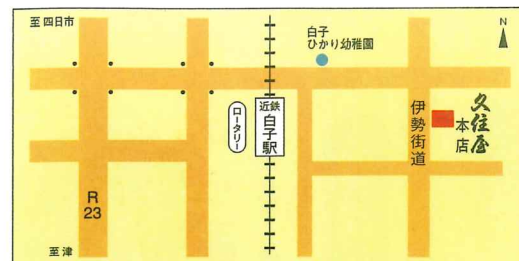
お問い合わせは下記まで



株式会社 アサプリ三重支社 TEL 059-245-3111

社名変更しました。(旧 株式会社オリエンタル)

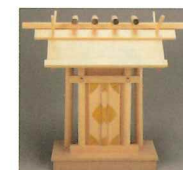
三重県津市河芸町上野2100番地 FAX 059-245-1177 https://www.asapri.co.jp/



久住屋茶舗

●本店 鈴鹿市江島本町 7-13 TEL (059) 386-0142 <毎週月曜定休日> FAX (059) 386-8385

神棚に御札をおまつりし 家内の安全をお祈りいたしましょう



板蓋神棚(中) 外寸:幅46×高44×奥20cm 内寸:幅12.5×高32×奥8cm 10,000円(税込)



洋風神棚 外寸:幅20.6×高30.6×奥8.2cm おまつりできる御札(最大)角幅 2,000円(税込)



茅葺神棚(中) 外寸:幅57.5×高51.5×奥37.5cm 内寸:幅21.5×高32×奥8cm 50,000円(税込)

※茅葺神棚・板蓋神棚の大きさは各(大)(中)(小)がございます。他に壁掛け用神棚もございます。種類・寸法など詳しくはホームページをご覧ください。以下の連絡先からお問い合わせください。

TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517 E-mail tsuhan@jingukaikan.jp

えと土鈴・各種土鈴・額皿・人形・御社紋入盃 名入湯呑・素焼製品・その他オリジナル陶製品

神宮司庁御用達 につき陶苑

〒515-0321 三重県多気郡明和町齋宮2432-1

Tel 0596-52-5702

Fax 0596-52-3713

県外研修



三月六・七日の両日にわたり、北海道札幌市にて会長以下十一名の役員・会員の参加のもと県外研

修の開催した。まず、札幌諏訪神社で正式参拝を行い、北方幸彦宮司様より神社の教化活動やSNSを活用した取り組みについてお話しいただいた。当会や各奉務神社の教化・広報活動を行う上で、大変参考になる貴重なお話しを伺うことができ、各地域に即した発信の仕方など工夫を凝らしていく重要性を学ぶ事ができた。

次に、札幌市民防災センターでは災害対策研修として各種災



害の模擬体験を行い、防災に関する知識や災害時の行動を学んだ。この施設では、煙が上がった際の避難の仕方や消火器を使った消火訓練などを行うなど、災害に対応するための心得を学ぶ事ができた。

令和6年度 神宮研修会開催

神道青年全国協議会主催の神宮研修会が、令和七年三月十八・十九日に伊勢の地で開催される。この研修会は十年に一度開催されており、神宮式年遷宮が国家・皇室の最大の重儀であることをそれぞれの地域の氏子・崇敬者へ伝えるべく、我々青年神職が神宮のことについて学ぶために開催している。

三月八日の中央研修会の閉講式で、次年度開催県としてPR活動を行った。令和七年は、先例に倣うと次期式年遷宮の諸祭儀が始まる年であり、本宗と仰ぐ神宮については是非とも多くの方に学んでいただきたい。多数の参加をお待ち申し上げる次第である。



編集後記

今号で節目の五十号を迎えることができました。創刊当初の趣旨・目的が引き継がれているか不安もありますが、五十号まで繋いでいくことができたのも会員を始め、歴代役員の方々のご協力の賜物であると感じております。

この会報『榊葉』は、その年の活動等が纏められており、三重県神道青年会の歴史書でもあると言えます。そして各号の記事には、編集者のさまざまな想いが込められていることをおわかりいただけたと思います。

今後もこの『榊葉』を、その時代の想いととも次世代へと繋いでいってほしいと切に願っております。

